

2014 MONDIAL DE L'AUTOMOBILE

エコカー技術を競ったパリの自動車世界展

解説・藤本 彰

10月2日からメディアデイを含む17日間、パリ市の凱旋門北方、ポルト・ド・ヴェルサイユ見本市会場で自動車の世界展が開催された。主要展示会場のエスカレーターが改善され、展示スペースにゆとりが出て、歩きやすくなったせいか雰囲気は前回より落ち着いた印象。前回ほどのお祭りの華やかさはなかったものの、展示内容は各国とも充実していた。

「2020年までに50km/Lのエコカーを生産せよ」というフランス政府の指導に従って、環境改善技術の新提案に加え、軽量車体素材にも新たな傾向がみられた。

1リッターで100km走破するルノー「イオラブ」

例によって1号館にはフランスの3大ブランドが集結。ルノー/日産アライアンスのカルロス・ゴーン会長/CEOはダイムラーのディーター・ゼツェ会長との共同記者会に臨み、2010年以来の戦略的提携プロジェクトがさらに拡大され、エンジンや変速機の

共用化に進み、コスト面でも成果を上げていることを強調した。

ルノーで注目されたモデルは9月17日に発表された“EOLAB”コンセプトである。Bセグメントのコンパクト・セダンでCD=0.235を達成した外形はマグネシウム・ルーフや薄型ガラス、カーボン・ホイールで車重955kg。これはルーテシアより400kg軽い。3気筒1L/68psガソリンエンジンと電気モーター＋バッテリーで前輪を駆動。1、2速をモーターのみで走行する方法で100km/Lを達成したという。生産に移行できれば550万円前後の販売価格とか。

もう1台のルノーの話題作は5代目“エスパス”。従来の実用MPVからスタイリッシュなクロスオーバーに切り替え、シェア挽回を図っている。

ルーマニアのルノー、ダチアでは商用車ドッカーとMPVロッジーにルノー・カンゲーをベースとした“ステップウェイ”を誕生させ、質感の向上をアピールした。

PSAグループのプジョーはガソリン・エンジンと圧



Renault Eolab concept



Peugeot 208 HV Air



Renault Espace



Peugeot Exalt concept



Peugeot Quartz concept



Citroën C4 Cactus Air-Flow 2L concept

縮空気によるハイブリッド技術を208に搭載した“208HVエア”コンセプトを初公開した。電池を使わず圧縮空気ポンプでモーターを駆動するハイブリッド・システムで、1リッターあれば50kmを走破するという。そのために炭素繊維やアルミ素材で車体を従来より100kg軽量化している。

さらにプジョーはオート・チャイナ(北京)で公開した4ドア・クーペのExalt(エクサルト)コンセプトをハイブリッド化、「iコックピット」と呼ぶインテリアを含めて実現性の高そうなモデルに仕立てている。

さらにもう1台、“クオーツ”と名付けた電動ハイブリッドSUVコンセプトをプジョーは出展。スタイリングもスペックも迫力満点だが、鮮度は薄かった。

一方シトロエンも空気ハイブリッド・システムを搭載した“C4カクタス・エアフロー2Lコンセプト”を出展、



Citroën C1 Urban Ride



Citroën DS Divine concept



Lamborghini Asterion LPI-910-4 concept



Ferrari 458 Speciale A

こちらも100kg軽量化された車体で注目された。

またC1(トヨタ・アイゴ、プジョー107と共通)をベースにソフト・トップの“C1アーバンライド”を初公開。車高を15mm上げてSUV化したモデルで、3ドアを好むか5ドアを好むかアンケートを取っていた。

高級ブランドDSでは“Divine(ディヴァイン=神)コンセプト”を初公開。インテリアはスワロフスキーとのコラボレーションでダッシュボードやドア・インナーパネルをモジュール化して容易に交換できるシステムを実演。将来のサルーンにはオートクチュールのファッション要素も必要だと主張した。

ランボルギーニがPHVに着手

高級車のプラグイン・ハイブリッド化がこのショーの特徴でもある。注目されたのはランボルギーニ初



Porsche Cayenne S E-Hybrid



Mercedes-Benz AMG GT



Mercedes-Benz B-class AMG



BMW 2-Series Convertible



Volkswagen Passat GTE



Volvo XC90

のPHV “アステリオンLPI-910-4”。流麗なカーボン・コンポジット・ボディの下に5.2L/V10自然吸気エンジン(ウラカンと同じ)と3基のモーター+バッテリーを搭載、660kW(910ps)で最高速320km/h。モーターのみで50km走破。CO₂排出量は98kg/L。

これに対抗するのはフェラーリの新型“458スペアールA”だが、フェラーリはEVもPHVもまだ搭載していない。

パナメーラSや918スパイダーに“E-ハイブリッド”(PHV)仕様を持つポルシェは新型カイエンSにもE-ハイブリッド・システムを搭載して出展。プレミアム・ブランドで3車種ものPHVを商品化していると強調したのは、かつて環境対策が遅いことをジャーナリズムに指摘されたことへの反動だろうか。

ダイムラーは昨年のIAAで発表したメルセデス・ベンツS500PHVを今夏に市販。モーターのみで33kmを走行するこのモデルを展示したほか、2017年までに9車種のPHVを市場に投入すると発表した。そしてSL AMGにとって代わるハイパフォーマンス・モデル、メルセデスAMG GT及び新型BクラスのAMG仕様を初公開した。

2013東京ショーでゴルフEVと“Twin up!”のPHVを披露したフォルクスワーゲンも8代目パサートに直噴ガソリン・ターボと電気モーターによるPHVを展示した。そして今回のもう1台の話題作は、昨年市販されたXLIをベースとするXL エコスポーツ・コンセプト。ドゥカティ製のVツイン1199cc/147kW(200ps)を搭載し、最高速270km/h。CD=0.257。レシプロエンジンの可能性をVWはまだまだ追求する



Volkswagen XL Sport



Ford Edge SUV



Audi TT Sportback



Opel/Vauxhall Adam S



Jaguar XE



Maserati Ghibli Ermenegildo Zegna



Land Rover Discovery Sport



Lancia Ypsilon Elle

姿勢だ。

アウディは、A8とQ5のHV仕様、A3スポーツバック“e-トロン”PHVをすでに発売。4月の北京ではTTオフロード・コンセプトでワイヤレス充電を提案している。このショーでは3代目TTの4ドア・スポーツバックを初公開。いずれプラグイン・ハイブリッド仕様が市販されると見られている。

今シーズン、PHVのi3、i8を日本に導入したBMWは1シリーズの後継となる2シリーズのカブリオレをパリで初公開した。BMWではiシリーズ以外にEV仕様はなく、主としてクリーン・ディーゼルトーボで環境汚染対策を強化している。

2010年秋から中国・吉利汽車グループの傘下にあボルボ・カーズは最上級車XC90に「ツイン・エンジン」と称するPHVを設定。丸みを帯びた外形デザインと

共に注目された。

欧州フォードはクロスオーバーSUV“エッジ”を初公開。2LディーゼルだがPHV仕様は未定。オペル/ヴォクソールはアダムSの量産型と新型コルサを発表。

2008年春以降インドのタタ傘下にあるジャガー・ランドローバーは業績好調で、ジャガーXE、ランドローバー“ディスカヴァリースポーツ”を出展。

大成功中の500シリーズにPHV仕様を追加したフィアットは、一回り大きな“500X”をSUVとして公開。

都会派には「メトロポリタン」、アウトドア派には「レジャー」が用意されている。プレミアム・ブランドとしての体制強化を進めているアルファロメオは4Cスパイダーの生産型を出展。創業100年のマセラティは



Fiat 500X



Jeep Grand Cherokee SRT



Alfa Romeo 4C Spider



Seat Leon X-perience



Skoda Fabia Combi



Hyundai i20

新型ギブリのスペシャル・エディションを発表した。

これはイタリアを代表するファッション・ブランドで1914年創業のエルメネジルド・ゼーニャとの共同開発によるもの。ランチアは主力車種イプシロンのElleで新しい塗色(パウダーピンクその他)や素材を提案。2009年以降フィアットの傘下にあるクライスラーはジープ・グランドチェロキーSRTを欧州デビューさせた。

VW傘下のセアト(スペイン)はレオン・シリーズにクロスオーバーSUVの“Xペリエンス”を派生、シュコダ(チェコ)は新型ファビア・シリーズにコンビ(ワゴン仕様)を追加した。

韓国・現代(ヒョンデ)は1Lガソリン・ターボを搭載する新世代のi20シリーズとi30のCNG(天然ガス)仕様を公開。起亜は新型ソレントとりオ、オプティマ・ハイブリッドを展示した。そしてインドのマヒンド



Kia Optima Hybrid



Ssangyong XIV Air



Toyota C-HR



Lexus NX300h

ラ傘下にある双竜(サンヨン)はオープンSUVのXIVエアを披露した。

日本勢のエコ・スポーツは？

トヨタがパリに持ち込んだのは次世代ハイブリッドSUVクロスオーバー“C-HR”。コンセプトとしているが2016年には市販される模様。そして6月に発売された水素燃料電池車のFCVも出展した。プリウスPHVはパリのタクシーでも活躍しているが、ヨーロッパのPHV攻勢に勝てる秘策はトヨタにあるのだろうか？ レクサス・ブランドでは迫力ある顔つきのNX300h(ハイブリッド)、RCFを出展。

日産最大の話題作はSUVのインフィニティQ80をベースとした“インスピレイション”コンセプトである。全長5052mmの車体にツインターボ3L/V8エンジ



Infiniti Q80 Inspiration



Nissan Pulsar DIG-T190



Nissan IDx Nismo



Mitsubishi Outlander Concept S

ンと電気モーターハイブリッドを納める。最高出力は405kW(550ps)だが、18.5km/Lと低燃費。外形デザインは従来の日産車よりソリッドでクールな印象。

ほかにフーガの海外版“インフィニティQ70”を欧州デビューさせたほか、Cセグメントの新型パルサー最上級仕様“DIG-T190”やホットモデル“ニスモ”コンセプト、東京で話題を呼んだIDx NISMOなどを展示していた。

三菱は昨年10月発売以来人気が高まりつつあるアウトランダーPHEVとそれをベースとした“コンセプトS”を欧州デビュー。益子修会長/CEOが英語でス



Honda Civic Type-R



Honda CR-V



Mazda MX-5



Mazda 3



Subaru WRX STI

ピーチした。

ホンダはシビック・タイプRコンセプトほか、CR-V、HR-V、ジャズ(フィット欧州仕様)のプロトタイプなどを出展。マツダは新型ロードスターMX-5、小型ディーゼルを積むマツダ3を欧州デビューさせた。

スバルはWRX STI、アウトバック、エクシーガなど一連の新型車を出展。スズキはコンパクトSUV“エスクード”の欧州仕様“ビターラ”をワールド・プレミア。ダイハツは「着せ替えボディ」で話題のコペンをインドネシア・ショーに続いてパリでも披露した。

世界の趨勢は化石燃料への依存度が当分高いが、次世代の生物のために、地球規模の環境保全に取り組むカーメーカーの姿勢をこのショーで感じた人々は多かったことだろう。



Suzuki Vitara



Daihatsu Copen